

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670200217		
法人名	株式会社ウエルネット		
事業所名	洛和グループホーム円町		
所在地	〒606-8024 京都市上京区下立ち売り通御前西入大宮町498-1		
自己評価作成日	平成22年10月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670200217&amp;SCD=320">http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670200217&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年11月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者ご家族さまに年に2回アンケートを実施し、内容より、サービスの向上に努めていっている。事故等生じた際は、その都度対応を行い、再発防止に努めている。また、予防のためにも、ヒヤリハットに対する取り組みも行っている。  
 行事は年間計画により実行し、ご家族さまに参加いただいたり、たよりにて行事の様子を報告したりしています。  
 1Fの個人経営の魚屋さんと良好な関係を継続している。新鮮な魚を提供してもらい、入居者さまたちと美味しくいただいたりしている(お造りを盛ってもらったり、魚を焼いてもらったりしている)。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学生寮を改装して運営されている当該ホームは、2階に位置する為毎日の散歩等での外出の際は階段の昇降が必要になり、自然に生活リハビリとして位置づけられています。ホーム内にも段差が残されており、リビングから居室への往復や浴室、トイレへの移動が日常のリハビリに繋がっており、入居前よりも身体機能が向上された利用者や自立に近づいている利用者もいます。アットホームな環境の中で、調理や洗濯物たたみ等の家事や来訪者への接待、利用者同士の労り合い等、大家族のような生活を送られています。一人ひとりの得意分野が活かせる場面を意識的に作ることで、利用者の意欲の向上や生き甲斐にもなっています。職員は利用者の立場になって考えるという事を前提に、思いや希望の把握に努力されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見えやすい玄関先に掲示して職員の意識を高めている。	地域密着型サービスの開始にあたり、地域と共に生活できるように職員間の思いを込めた理念を作り、日常のケアで実践している。見やすい場所に掲示する事で、原点に立ち戻り、再確認しながらケアを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	外出時、地域の方と顔をあわせると笑顔で挨拶をし、回覧板等も利用者と一緒に持って行き交流を深めている。	散歩時には、笑顔で挨拶を交わし顔見知りになっている。自治会に加入し、回覧板が回って来て地域の祭り等行事に参加している。保育園児の訪問が年に2回あり、ホームでの行事の際にはポスターを掲示して地域の方々をお誘いしている。階下の商店とは特に懇意にしており、ボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行事を実施する際、ポスター等を玄関先に掲示し地域住民の方へ参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員はもちろん、利用者にも話し合いに参加していただき、サービス向上に努めている。	会議は2か月に1回、利用者、家族、地域包括支援センター職員、ホーム職員をメンバーに開催している。ホームから活動報告をして参加者から意見等をもらいサービスの質の向上に反映させている。地域の民生委員等は年度毎変わる為、今年度は出席されていない。	地域の方々が興味を持ってもらえるような認知症サポーター養成講座や医療面での議題等、会議の内容に応じて参加者を募られてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡協議会等、区の会に参加している。	区主催の連絡協議会に出席して、担当者や他事業所と交流を持っている。市とは法人が一括して、相談、報告を行い密な連携を図っており、事業所としては法人からの指示に従っている。今後は運営推進会議の議事録はホームが持参する方向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は戸締りの為施錠しているが、日中は開錠している。身体拘束は、研修等に積極的に参加し職員の意識を高めている。	身体拘束についての研修を毎年受講しており理解を深めている。扉を開けるとすぐに階段があり、危険を伴うにもかかわらず、ホームでは見守りを徹底することで、玄関は施錠せず自由に入出りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同じく、研修等に積極的に参加し職員の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同じく、研修等に積極的に参加し職員の意識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書を読み合わせ、補足説明を加えながら理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関先の分かりやすい場所に意見箱を設置し意見や要望を聞く機会を設けている。外部評価や第三者評価を受けている。	家族の来訪時に、直接意見や要望をもらい、その都度速やかに対応し個別に返答している。また、年に2回家族アンケートを行い、様々な意見や要望を把握し、改善策を立てて実行し、集計結果も家族に配布している。対応が難しい時には、家族と話し合いを重ねて理解してもらえるように努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上カンファレンスを行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	カンファレンス等で職員は意見や気付きを出し合っている。出席できない場合は、前もって議題を提出し、全員の意見や思いを出し合っ、ケアに反映させている。年に2回、自己申告書を提出し必要に応じての個別面談があり、相談や要望を聞いている。法人のフリーダイヤルの相談室も整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にそれぞれ適当な役割等をふり、やりがいや、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に積極的に参加し職員の意識を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市、区が実施する講演会に参加したり、府のGH協議会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を傾聴し、ご要望を聞く事はもちろん、入居前にアセスメントをしっかり行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時にしっかりと話を聞き、ご要望をお聞きする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のADLに応じ、専門的なサービスも受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や、食事等を一緒に行い、家庭的な環境をつくるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで行う行事等、家族様にできるだけ参加を呼びかけ、利用者との交流を深めていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの年間行事計画に「個別外出」を計画し、利用者希望の出掛けたい場所を聞き出し、できるだけ実行できるよう努めている。	家族や親戚、古くからの友人がホームに訪ねてくれたり、年賀状が送られて来る。職員との個別外出の機会を設け、以前の住居を訪ねたり、行きたい場所や馴染みの店に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃のレクリエーション、フラワーアレンジメント等を行い、よりよい関係をつくれるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院等で入院され、退去となった場合、仲の良かった利用者と一緒にお見舞い等に行き、関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを傾聴し、出来る限り希望に添ったケアができるよう心がけている。	入居時には面談で今までの暮らしぶりを聞いたり家庭訪問をしている。日常の会話の中で、好きな事や希望を把握し、センター方式のシートに記入して職員間で共有を図っている。意向を言葉で表明できない方には、生活歴から把握したり、家族に聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、生活歴等の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、生活歴等の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回以上のカンファレンスを行い、その際、ケアプランの見直しや、作成をし、職員全員の意見を反映できるよう心掛けている。	カンファレンスを行い、職員間で話し合った内容と家族の意向や本人の希望も反映させた介護計画を作成している。評価やカンファレンスを基に、3ヶ月に1度のモニタリングを行い見直しをしている。入居後は1ヶ月で見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録等の閲覧は全職員が行い確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化時にはその都度カンファレンスを行い、ケアプランの見直し等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの花屋さんからフラワーアレンジメントに来ていただき、生け花をして楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診に加え、必要時、緊急時には受診をし、家族様にもその都度連絡をしている。	入居時に今までのかかりつけ医の継続が出来る事を説明し、利用者の希望でホーム提携医が主治医になっている。精神科や神経内科といった専門医に通院する場合は、家族対応になるが、医師との連携が図れるように、職員が同行して状況報告している。提携医の2週間に1度の往診の他、看護師の週に1回の来訪や24時間の緊急時連絡体制もある。歯科医も必要に応じての往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師による健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院専門の相談員がいたり、モンテラ等の参加を積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りに関する指針を設け、入居時に説明。また、必要時にも説明している。	看取り指針に基づいて、入居時に重度化やターミナル時の対応について話しをしている。ホームが2階に位置している為、階段の昇降ができなくなっても希望があればホームで対応できることも伝えている。ターミナルや重度化についての研修も受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要時に対応できるよう、全職員が定期的に研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員はもちろん、利用者も参加し、消防訓練を定期的に行っている。	年1回、消防署との協力で訓練しており、消火器の使用方法を学んだり、避難経路を確認している。ホーム独自でも、2ヶ月に一度、様々な場面を想定して訓練し、緊急連絡体制の確認も行っている。定期的に消火器の点検や消防自主点検も行っている。近隣の方々には、ホームの現状を話して協力を得られるようお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの関係にならないよう日頃から、声かけや、対応には気をつけている。	利用者の尊厳を守ることを第一に考えて、プライドを損なうことのないような言葉がけでの対応がなされている。不適切な場面が見られる場合は職員間で、その都度注意し合ったり、疑問がある場合は話し合っている。利用者の希望に応じ同性介助で行うこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ日頃から本人の自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅で暮らしているように食事、入浴、散歩等の時間を希望通りに行っていたりするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所のなじみの理容店に行き、気分転換にもなっておられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食事作り、下膳、配膳等を日常的に行っていたりしている。	利用者の希望を聞いたり、冷蔵庫の中の食材を見ながら献立を考えている。できる方とは、買い物から調理の下ごしらえ盛り付け、配膳、片付けを一緒に行っている。職員も共に食事をして、検食簿も整備されている。階下の魚屋から、新鮮な魚が届き、刺身や焼き魚で食べている。時には外食もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートに毎食の食事量を記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、週1回歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートに排泄があれば記入し排泄パターンを把握している。	チェック表に記録し個々の排泄パターンを把握した上で、トイレ誘導を行っている。寝たきりから徐々にADLが向上するにつれてトイレ誘導を行った結果、紙おむつから布パンツに移行できた利用者や、繰り返しの誘導でトイレの場所認識ができ自立できた利用者もいる。紙パンツから布パンツへ移行して、湿潤が軽減された為、皮膚の状態が良くなった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時はDr指示のもと、下剤管理等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	チェックシートに入浴の有無を記入し、それと照らし合わせ声かけを行い、できるだけ希望の時間に入ってもらえるように心がけている。	毎日入浴準備をして週に2~3回、昼食後から利用者の希望や状態に合わせて入浴して頂いている。希望があれば毎日や午前や夜間の入浴も可能である。拒否傾向のある方は時間を変えたり、家族に協力してもらう等、働きかけを工夫することで、気持ちよく入浴して頂けるように努めている。利用者によっては風呂上がりにノンアルコールビールを飲まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの利用者の体調に合わせて休息をとっていただいたり、気持ち良く眠れるよう室温調整をし安心して眠っていただけるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方せんに全職員が目を通し、理解していくように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の楽しみや、趣味等を参考に家事、レクリエーション等をしていただくように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって買い物、散歩、行事などで外出している。	毎日の散歩や買い物で外出している。1ヶ月に1回は外出行事として遠出をしたり、外食して気分転換を図っている。家族と一緒に食事や美容院に行かれたり、個別での外出支援も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在本人がお金を持っておられる方はおられないが、買い物等で職員が同行する際、お金を一緒に払ったりして理解していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙を書いていたいただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花を飾ったり、その季節ごとのもの(五月人形、雛人形等)を飾っている。室温は室温計を置き、常に適温に過ごしていただけるように努めている。	元は学生寮ということもあり、ホーム内は段差もあるが、テープを貼って段差が認識できるように工夫されている。蛍光灯には、紙を貼って暖かみのある光になるように演出している。季節の飾り付けを施したり、生け花を飾ったりしている。寒い時期には、乾燥予防に加湿器を置き、廊下には温度差を解消する為にオイルヒーターを置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子等をたくさん配置しており、利用者それぞれお好きな場所で過ごしていただけるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴れたものや馴染みの家具等を用意し、安心して暮らしていただけるよう支援している。	家族と相談して、入居前に自宅で使用していた家具等を持ちこんでもらい、家族の写真や好みの装飾品を飾ったり、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。利用者の状態によっては家具やベッドを移動して安全に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所に各利用者ごとのコーナーをつくり、歯磨き、洗面等自立でお好きな時にやっていただけるように援助している。		